

1 / 2 1 メールにて k-kim@mri.co.jp あてに送付した添付ファイルでのメール意見に反映されていないようなので反映願います。

追加

(全体)

河川は生命の糧として大変に重要なものと考えています。しかし、堤防を築いて社会生活や産業・経済との結びつきも強くなり、これらの点を含めて計画を策定することが必然となっています。環境偏重、川中心の考え方だけでは理解が得られず、多様な調和のある計画とすることが必要と考えます。

(重要性)

戦争でもテロでも敢然とした姿勢は必要ですが、生命の安全が重視されています。お金をかけるわけですから、安全度の不確定性はあるものの、いつまでに治水安全度をここまで確保しますといったことを明言する必要がある、治水が重視されることは当然だと考えます。

確かに、整備には限界があるわけで壊れにくい堤防の整備は必要ですが、まずは明確な整備水準の提示と治水の実施であると思います。

次に、人間は水がなければ生きられないことから、節水社会の構築を目指すものの、自然流下の水がよいのですが、河川勾配が厳しく、次善の策をとりながら利水の確保を確実に行うことが必要と考えます。

環境については、地域性を加味した考え方が必要と考えます。山間部では周りにも自然があるが、安全性としての保全物の関係と自然の調和を考えるべきでしょう。都市部では、安全と利用の観点が強くなり、周辺の人間社会の分析を行うべきで、今のように「川はこうあるべきだから、過重な利用は排除すべき」といった考えは受け入れられないもので、使い方について人間と川独自の環境との調和を目指すべきだと考えます。

(指摘事項)

治水に関して、公共事業で整備するわけで、いつ・どの水準の安全を目指すのか分かりやすい提示が必要

利水に関して、環境の点から「原則ダムを作らない」と決め付けるのは？。利水の確保水準を示しコンセンサスを得て自然流下で確保する分、ダムで確保することが妥当な分を示して、必要な整備をすべき。

環境に関して、周辺地域、住民、自治体等とのコンセンサスが重要。例えば、本意ではないかも知れないが、子供の非行防止、身体の健全確保に役立っている公園利用について、簡単に出て行けというのは問題、この不況の中、住民ニーズもある。国土交通省が提唱する公園整備率の30～40%しかなく、河川にある面積を確保することは、資金的、土地確保の点からも不可能で、地域の全体調和で検討すべきと考えます。

(その他)

川はこうあるべきだとの議論はいいと思います。しかし、川を創るのは川だというだけでなく、自然・生き物のほかに人間・住民との調和といった点を考えていく必要があります。住民や社会、産業・経済＝雇用を考えない計画は浸透しないと考えるのでよりよい計画になるように検討願います。

・川に活かされる(活用?)でなく、生かされる or いかされるでは?